

イノベーション人材育成推進教員活用事業の取組紹介

各小・中学校における理科授業の質的向上並びに児童生徒の理科への興味・関心を高め、資質・能力の育成を図ることを目的に、白河市立白河第二小学校において、12月19日(木)に実施しました「第3回小中合同理科授業力アップ研修会」について、ご紹介させていただきます。

提案授業 6年「水溶液の性質」より

単元名 6年「水溶液の性質」

ねらい 水溶液の違いを調べる実験について、解決の方法を発想し表現することができる。

授業者 白河市立白河第二小学校 海老名 優希 先生

<参加者の感想より>

- 子どもたち同士が常に対話している姿が印象的でした。
- 日常生活や既習事項と結び付ける工夫が見られ、理科の有用性を子どもたちが感じられるような授業でした。
- 予想→実験方法→実験順序を考える学習過程の中で、子どもたち主導で授業が展開されていてすばしかったです。
- ICT 機器は、必要に応じて必要な子どもが使用していました。
- 「どのような違いがあるのか」を予想するには、根拠が少なかったため、子どもたちが考えるための知識を事前に教えておく必要性も感じました。



研修会では、福島大学人間発達文化学類准教授の坂本篤史先生をお招きして、「理科授業における子どもの見取りと教師のコーディネート」についてご講演をいただきました。

授業づくり講演会より

<参加者の感想より>

- 坂本先生のお話から、理科では、図式化して表現させることで、より抽象的な理解へとつながり、科学的な思考が深まっていくことを学びました。
- 授業においては、子ども一人一人が何を考えているのか見取ることが大切だと思いました。子どもがどのような思考を巡らせ、何を考えているのか見取ることを日々の授業で大切にしたいです。
- 理科では、生活経験や既習事項の積み重ねが大切だと改めて感じました。科学的な思考を育むためにも、理科の学習を日常生活と結びつけられるような指導をしていきたいです。

